

協議会だより

道南技術士協議会

新函館市における歴史遺産・土木遺産をめぐる ツアーに参加して

1. はじめに

2004年12月1日、合併特例法に基づく合併としては、北海道として初めて函館市と近隣4町村とが合併しました。旧函館市には函館山をはじめ、赤レンガ倉庫、五稜郭、元町界限、湯の川トラピスチヌなどの多くの歴史遺産が知られていますが、今回合併した新函館市における土木遺産、歴史遺産については、ごく一部のみにしか知られていないものが多いです。

そこでこのたび、新函館市の戸井、恵山、榎法華、そして南茅部に点在する歴史遺産、産業遺産、土木遺産についての研修ツアーを函館工業高等専門学校、はこだて観光情報学会の協力を得まして開催いたしました。この研修を通じて道南の技術史の再認識を図り、ひいては新函館市の観光資源の発掘につながるのであれば大変喜ばしいものだと考えております。

2. 研修ツアー概要

○開催日時 2005年10月8日～9日

○研修日程

第1日

志海苔館→戸井線遺構→袋澗→戸井郷土館→戸井砲台跡→古武井溶鉱炉跡→恵山郷土館→恵山貝塚→大謀網発祥地→ひろめ荘泊

第2日

大船遺跡→三味線滝→黒羽尻トンネル→大沼電鉄第一発電所→第二発電所→第三発電所→城岱牧場→七飯町歴史館→赤松街道

○講師

葦澤 憲吉

函館工業高等専門学校 教授（環境都市工学）

中村 和之

函館工業高等専門学校 教授（歴史、人間と文明、科学技術史）

○参加者

道南技術士協議会 12名

はこだて観光情報学研究会 4名

3. 研修報告（抜粋）

① 戸井線遺構

戸井線のアーチは無筋コンクリートである。無筋コンクリートでアーチを組むとした場合構造計算をすると最大支間長は1.8m程度となるらしい。また無筋コンクリートと考えられているが、実際に調べてみると無筋ではなくて竹筋コンクリートかもしれないとも考えられている。



② 戸井砲台跡

迷彩色に彩られたかつての砲台跡は、まさに葦澤教授の言うムーミンの森のごとくである。さらに格納庫跡の上に繁茂する木々に目をやると、それは天空の城ラピュタが地上に舞い降りたの観でもある。

この地は、本州との最短の場所にあり、津軽海峡の喉下、切っ先に相当するからこそ、砲台が設置されたのであろう。

現代においても、貨物船の往来はげしい海峡にあることは、過日の根室沖の漁船がイスラエル貨物船との衝突事故をみても海峡の重要性、軍事的重要性が変わっていないということだ。

今盛んに注目を浴びている大間原発も、戸井から

見て目と鼻の先の位置にあることに改めて思い知るところである。



③ 古武井溶鉱炉跡

五稜郭を設計した武田斐三郎が、おなじく設計した鉄鋼の溶鉱炉跡である。そこには水路跡らしき溝や基礎跡が見られるが、恵山郷土館に再現されている溶鉱炉が本当にここにあったのかと不思議な気がする。



④ 旧大沼電鉄 渡島水力 第3発電所、第2発電所、第1発電所

第2発電所は900kwの出力を持ち、大正時代に設けられた発電所である。発電所そばには網の置き場がある。ただ、この発電所には水の出口が見当たらなかった。建物側壁はレンガなのに、屋根はトタンぶきの木造屋根である。屋根まで立派にするお金がなかったと思いきや、長谷川技術士いわく、爆発があった場合に、圧力が屋根を通じて逃げるようにするためであって、その際、側壁がくずれないようにしているのだという。



⑤ 国道5号赤松街道

黒田清隆が、明治天皇行幸の際に植えさせたものなのだそうだ。車もない明治初めからこんなに広い並木路を整備したのは恐れ入る。当時赤松を植えるとは言わなかったらしい。七飯官園で植林しているものを植えろと言ったので、現在ある赤松街道には、黒松もあり、ケヤキもあるという。



4. おわりに

今回のツアーは、ちょうど亀田半島を反時計回りに、産業遺産、歴史遺産を巡るツアーでした。まさに時計を反対に、時の流れを逆に回したような亀田半島に眠る歴史遺産を眠りから呼び覚ますような1泊2日でした。あらためて函館には数多くの歴史があることを知ったしだいです。雨風に晒されている歴史遺産を後世に残していく方策がないものか、

観光資源として活かす方策がないものか、考えさせられる1泊2日でありました。



最後になりましたが、今回のツアーは函館工業高等専門学校の澤村助教授（技術士）が企画されたものであり、あらためてお礼を申し上げたいと思います。また、韭澤教授、中村教授には講師を快くお引き受けくださいましたことに感謝いたしまして、今回のツアー報告といたします。

（文責：道南技術士協議会幹事 吉田 一雄）